

武 藤 祯 夫 編

画 叻 卍 集

古 典 文 庫

武 藤 祯 夫 編

画 台 牵 集

古 典 文 庫

古典文庫第五九〇冊

平成八年一月二十日印刷発行

非売品

画咄本集

編 者 武 藤 祯 夫

發 行 者 吉 田 幸 一

印 刷 者 白 橋 印 刷 所

發行所

114

東京都北区西ヶ原

古 典 文 庫

電話 振替口座東京〇〇一九〇一九一四五九七番
〇三(三九一〇)二七一七

清書齋文集

校編

上

周易

卷之三

滑稽物語書之流編

目次

平安豊三葉丸役合

忠義の湯公轉

むこうの博

人情せ絵

はるの櫻

海妻の湯

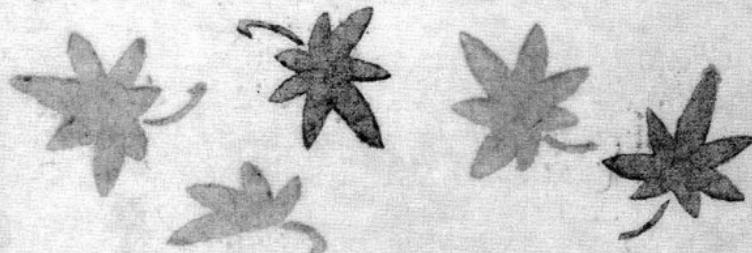
ねえ乃あ産

わづふ山の手

よ代の友同志
花太の天上
天具の利
雅書の秀才
のぞき
玄の玄道
十六年秋面



まつゆの右好
きくの畠
み三の相火
人旅
宿のゆど
むらん入
眼
店の寺法
ゆき

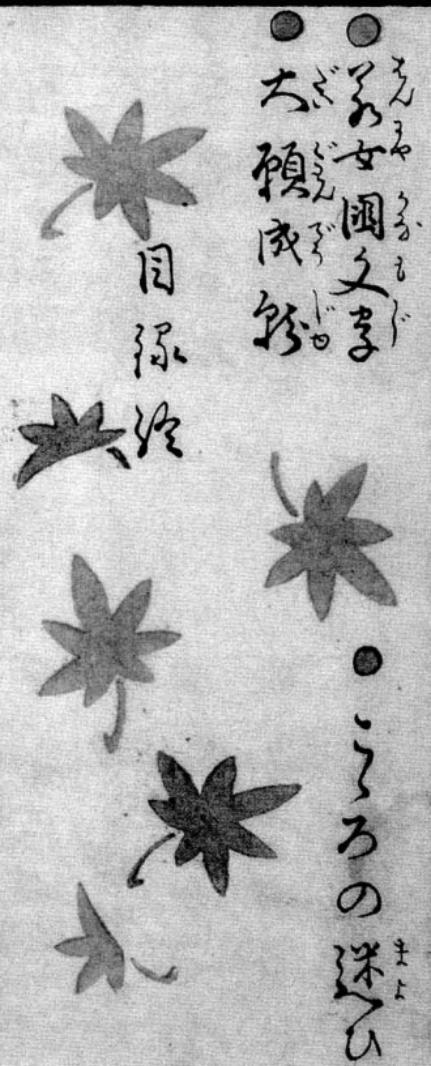


まのまの茶ね
まの物や痴穢
百礼の茶酒
十方え
安堵の沙女
弓失れ
袴まの女
どちらも吸
もの

ふこのはい
肉桂の辛福
太喝一あす
男の立候
古物の春候
あさくの後え
音達立木
流の湯をき
のをも



煙花の種
白菫の性生
青ぐる蓮叶
重升の影
安んの重
角み云
獨處の山
タスの山
ムの僅
月の様

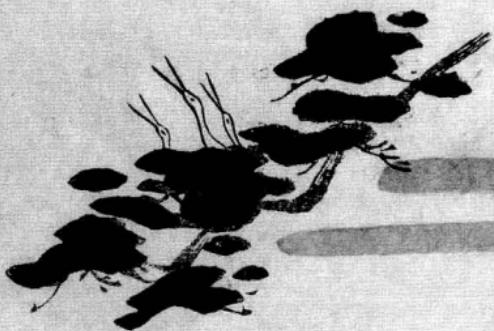


卷頭切極上

○ ゆ代の友達

き
ま
ね
ね
に
の
み
ま
ご
吟
や
い
よ
ひ
か
く
し
ち
ゆ
ん
ゆ
う
か
く
か
の
ふ
の
み
代
の
よ
う
め
る
今
日
の
よ
う

い
つ
ま
ご
の
じ
や
け
ま
で
ま
の
じ
や
く
水
ま
す
が
も
り
と
き
日
時



上

忠義の湯鮋魚

うりよま磁の汁

うの足を頃戴く

章魚

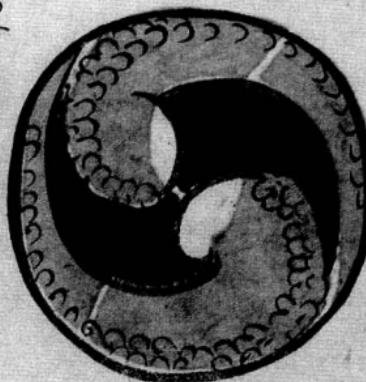
ニ入る

仲居

よとく出く

それへ行んじゆと問

大石い改



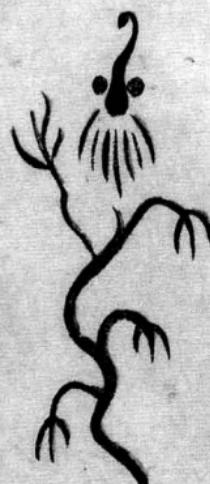
上

花火の天と

あ國さいごく 今度いまどに夕ゆべ もえで 沈おちむと思おもふ
二里ふり 絵ゑ書かずて がんば 東ひがし 向むけて 広ひろきと 大おほき

ひよとあが

やがて うの 大おほい 双方ふたがた 一ひと人ひと
まつまつ の おが 小こほ



ひやうな 大おほい きよ

あらやま あらわ トと や

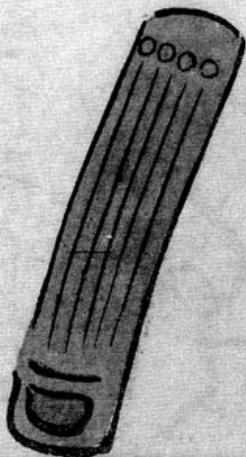
いや 雨あめ 絵ゑ いなか

上吉

● まちり傳牙け

店の舊居二十日経入て薬局つき酒と
うらんと出入の石店と呼まづくの

居りの石店と呼まづく
上の言へのやくの言へ
りやくの言へ一貧乏



下よ活畜と
かすつゝり仕子へとふが
裏の腰さこでたら同玉えより大珍よしやう
へありん志やんとやう

上

○ 天氣の判ひ

うふ巾とすり
あはみとすり

み簾竹と

わく笠木とすり
卦木とすり

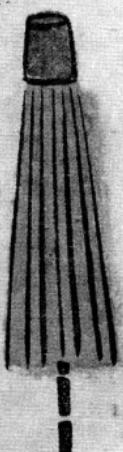
人お用ひ

若歴人
猿猴林

百の口十六文経

アリス
笠木と失物で
アリス

アリス



三嘆上

● 人情の強烈

えとを漱田節のやうふねが黙ってハジメ
縁より百人とりのじやそくと
ひぐんであるえよ狗よ汁や毒のなる男よ

せんじと七毛の半泣

長町 昆済

ぎはてじやよ

あれは夏太公とあきつも
せずすすきくらぬか

もうでさつといふ

上

○幼稚園の児童

お父さんタマ
えんな

橋入るやなまのう

東の方あつへ

下段

りやそかみや

虹
りゆき
も

ハ

上

● は來れ黒げ笠

或の庄官殿の御入部
不礼なきやうよはて、先て
いわくと、知すわらの
ま中のよの破き笠を捨て
竹と見ゆる、忍びて極
やりおればよほうなんまの
口いつが捨てうさとツバ
ふのまのへいを今經の
蜘蛛も助めでぐりま

